

カリフォルニア大学群による第1回 Global Health 学会について (第2報)

The first Conference of Global Health held by University of California Schools
at University of California, Irvine (Second report)

笹岡 香織¹, Jonna A.K. Mazet², Patricia Conrad³, 石井 猛⁴
Kaori Sasaoka¹, Jonna, A.K. Mazet², Patricia Conrad³, Takeshi Ishii⁴

- 1 カリフォルニア大学、デービス校、獣医学部、獣医学科、大学院生
2 カリフォルニア大学、デービス校、獣医学部教授ならびに Wildlife Health センター長
3 カリフォルニア大学、デービス校、獣医学部教授
4 岡山理科大学

¹ University of California, Davis, D.V.M, graduate student

² University of California, Davis, D.V.M, MPVM, Ph.D, and the director of Wildlife Health Center

³ University of California, Davis, D.V.M, Ph.D,

⁴ Okayama University of Science

2010年11月30日に、カリフォルニア大学アーバイン校にて、第1回の Global Health 学会が行われ、成功のうちに幕があがった。この学会は、アーノルドシュワルツネッガーカリフォルニア州知事の承認のもと、2009年11月9日から発足した。この学会では、One Health, Migration and Health, Women's Health Empowerment の3つのセンターを設置し、カリフォルニア大学10校から医学部、獣医学部、経済学部、法学部等のそれぞれの専門分野からエキスパート達が参加した。さまざまな国や大学と連絡を取りながら、カリフォルニア大学群間と共同研究を行い、今後予想される問題や課題の解決に尽力することを目的としている。今回はカリフォルニア大学群合計10校から多数の参加者が集まり、現在行われている研究の発表やポスターセッションの発表が効果的に行われた。

Global Health 学会のうちでも、One Health についての関心が高かったため、全発表時間のうち3時間もの間、現在進行している世界17カ国における野生動物から人間への疾病感染の有無、ベトナムにおける鳥インフルエンザに関連した現地調査などの報告がなされ、特に、ゴリラ、チンパンジーなどの野生動物、牛、豚などの家畜と地域住民との食料源、水資源の共有から、人間から動物へ、動物から人間への感染症が認められた。更には、これらの研究の派生により、現在、ウガンダにて、原因不明の出血熱が流行していることなどの具体的な例が報告されたため、医学関連の有識者より大きな関心を誘い、鳥の呼吸器感染症の実際の罹患率、現地の対策法、研究者からの予防に関する教育など活発に意見交換された。マラリアに関する最新の検査方法として、携帯電話より一回り小さい携帯型顕微鏡など新しい技術に関しても報告がなされ、多くの参加者の関心を引いていた。

発表の中では、アジア地域の発展途上国における人畜共通感染症の予防実態、女性の権利の認知格差などが欧米などとは違う特徴的な文化的背景に基づいていることから、米国で成功した例をそのまま応用することが困難であることを改めて認識、確認する参加者も多かった。そのため、地域特有の文化をもつ国との連携には、米国の有識者のなかでもそのような背景を理解できる有識者と研究を実施していくことが、この学会の更なる飛躍につながると考えられた。

2011年4月9日には、One Health の専門の学会として、カリフォルニア大学デービス校にて、Mazet 教授が主宰となって行われる予定である。第1回の Global Health 学会の反響から、多くの有識者が集まることは予想されるが、現在実施されている One Health における研究内容についても関心が高まっている。



One Health セッションの学会風景